

## 【学年・教科・単元名】

2年生 音楽科 「せいかつの中にある音を楽しもう ～自分だけの音にこだわりをもって～」

## 【経緯】

朝学習の自己表現開発の活動の中で、30秒、目を閉じて耳だけに意識を働かせ、どんな音が聴こえてくるかを試した子供たち。すると鳥のさえずりや遠くの新幹線、雨水が排水管を流れる音など、普段は意識をしていなかったけれど静かに耳を澄ませることで、自分の身の回りには様々な音で溢れているということに気付くことができた。子供たちが「帰り道には横断歩道の音がするよ。」「電車の扉が閉まる音はこうよ。」と次々と教えてくれて、“他にはどんな音があるのかな？自分だけのお気に入りの音を探したいね”と学習に繋がった。

## 【取組の実際】

### ①単元序盤

最初は、生活の中にある音を見つけるために、授業と家庭学習を利用して、校内・校外・自宅などで音見つけをした。天候や時間帯によって聴こえてくる音が違うこと、同じ対象でも人によって聴こえ方が違うことなどの面白さを共有しながら、自分だけのとおき音を見つけていった。「大好きなおばあちゃんの家で見つけた音」「家族で遊んでいるときに聴こえた音」「お母さんが料理をしている音が好き」と、音と共に子供たちのこだわりや想いを知ることができた。



### ②単元中盤

自分だけの音を見つけた後は、その音を紹介し合い、組み合わせると面白い音楽づくりを行うことができるという視点で、グループを作った。「みんなで声の合奏をしよう」とめあてを立て、音を重ねたり組み合わせたりして音楽づくりを行った。子供たちは、ワークシートに文字だけでなく、矢印や下線、記号を自由に書き加えながら、音色や強弱などの効果を視覚化し、表現に生かしていった。



グループで発表すると、友達の表現の工夫を感じ取り、自分の表現がより良くなるようメンバーと話し合い、実際に声に出して試しながら、自分たちの音楽をつくっていった。



## 【取り組み後の子どもたちの姿】

○「みんなそれぞれお気に入りのものがあるよね。」

自分の音と同じように友達にも大切にしたい音があると知り、こだわりを認め合おうとする姿が見られた。互いの個性や異なる考えを認めることにつながっている。

○「静かな様子を伝えるときは、息を出す感じで小さく言えばいいよ。」

お互いの発表を聴き合った際に、友達の表現の工夫を見つけ、アドバイスをもとに何度も確かめながら、その効果を感じていった。新しい表現の仕方をたくさん知ることができた。

